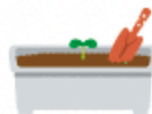




プランターで野菜作りを始めてみよう!



# ピーマン

1 栽培時期 △ 種まき ■ 収穫

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
作型												
露地栽培					△	■	■	■	■	■	■	■

## 2 準備するもの

- ピーマンの苗  
(葉の色が濃く、がっちりしまっていて一番花が咲き始めているもの)
- プランター(1株なら直径30cm以上程度、2株なら直径45cm以上)
- 培養土 ●鉢底石 ●野菜化成肥料
- 牛フン堆肥 ●苦土石灰 ●支柱(120センチを2本)
- ひも ●ジョウロ ●剪定ばさみ

## 3 栽培のポイント

- ◆5月の暖くなった時期に植え付け、日当たりと風通しのよい場所で育てる。ピーマンの枝は弱いので収穫はハサミを使う。
- ◆一番花は株の体力を温存し、その後のわき芽の成長を促し、長期間収穫ができるようにするため摘み取る。
- ◆ピーマンは尻腐れ病が出る恐れがあるので石灰は施用をお勧めします。

## 4 植え付け

- ◆プランターの底が見えなくなる程度に鉢底石を入れる。培養土に牛フン堆肥1にぎり苦土石灰1にぎりを混ぜる。培養土をプランターの半分程度まで入れて水を吸収させた後、プランターの上から5cmまでの高さになるよう培養土を入れて再度水を注ぐ。スコップで苗の大きさほどの穴を掘り、ポットから取り出した苗を浅めに植え付け、周りの土を寄せて軽く押さえる。

## 5 誘引

- ◆ピーマンの苗が中心にくるようにして2本の支柱を両側に立て、地際から約15cmの高さで交差させてしっかり固定する。支柱とピーマンの茎をひもで8の字に結び、茎が成長し太くなることを想定し少しゆとりを持たせる。

## 6 整枝(わき芽を取る)

- ◆わき芽とは、茎と葉の付け根から出てくる芽のこと。1番目のピーマンの実が大きくなり始めるころを目安に主枝とその下の勢いの強い2本のわき芽を残し、その他のわき芽はすべてとり3本仕立てにする。

## 7 追肥

- ◆培養土には肥料が入っているが、水やりにより肥料分が流れるため追肥を行う。葉の色が薄い場合、化成肥料は土1ℓに対して1g、または水1ℓに対して液肥1ccを希釈して与える。

## 8 収穫

- ◆開花後15日~20日ほどで収穫の目安となる。